

先人から受け継ぐ伝統と熱き魂

歴史や伝統文化を大切にしてきた藤岡市では、エネルギーがはじける夏祭りや獅子舞などの郷土芸能が受け継がれています。人から人へとつながってきた、郷土愛あふれる熱き心の数々を紹介します。



藤岡まわりの

7月下旬に市街地で2日間にわたって開催される、市民参加型の夏祭り。諏訪神社と富士浅間神社の歴史ある祇園を引き継いだ「宮神輿渡御」や市民パレード、子どもみこし、飛び入り参加も可能な藤岡オリジナルダンス「ダンスFujioKawar-Happy」など多彩なイベントが繰り広げられます。なかでも、日が暮れてから盛り上がる大人みこし、祇園山車行進では、みこし担ぎの威勢のいい掛け声や祭り囃子が響き渡り、藤岡の街は祭りムード一色になります。



鬼石夏祭り

祇園祭として江戸時代後期に始まった、歴史ある夏祭りです。地区ごとに独自の調子を持つお囃子を打ち回しながら、5台の山車が町内を練り歩きます。最大の見せ場は、坂道で山車を一気に引き上げる「新田坂の駆け上がり」と5台の山車が一堂に会する「寄り合い」です。寄り合いでは、各町内で受け継がれてきたお囃子の打ち回しの後、5町内一斉の乱れ打ちが行われ、祭りの盛り上がりは最高潮を迎えます。



三嶋様の夜祭り

三嶋神社の秋季例大祭の前夜祭として、本社（下ノ宮）と別殿（上ノ宮）との間を神輿が渡御する伝統行事。花火が打ち上げられ、多くの参拝客でにぎわいます。



「三嶋様のためなら」という思いに支えられて

三嶋神社世話人 第80代総代 折茂 秀治さん
第81代総代 金澤 甲さん

三嶋神社は4代平井城主・上杉 顕定が、伊豆三嶋大社から分祀し、平井城の氏神として祭ったと伝えられている歴史ある神社です。神社のまつりごとを仕切るのが、総代をはじめとした世話人たちで、平成26年の年中行事を仕切ったのが第80代総代の折茂さんです。「今年の夜祭りも良かったよと声をかけてもらえてほっとした。歴代の総代たちがやってきた最低限のことはできたかな」と肩の荷を下ろします。その折茂さんからバトンを渡された金澤

さんは、第81代総代として、平成27年の年中行事を仕切ります。三嶋様の夜祭りで打ち上げられる花火は、地元の人への寄付でまかなわれています。歴史ある祭りや神社を支えているのは、地元の人々の「三嶋様のためなら」という思いです。「その思いがあるからこそ、自然と継承につながっている」と二人は声をそろえます。「広報活動にも力を入れて、夜祭りをもっと多くの人に知ってもらい、にぎやかな祭りにしたい」と金澤さんは話しています。



三嶋様の夜祭り

御荷鉾山不動尊の獅子舞

土師神社の秋祭り

土師神社の秋祭り

五穀豊穡、天下太平を願った秋祭りで、獅子舞や流鏝馬、花馬が奉納されます。流鏝馬では、参道に設けられた約160mの馬場を騎射しながら駆け抜けます。



花馬・流鏝馬の復活から継承へ

本郷根岸 花馬保存会 会長 青木 由行さん

本郷・根岸の人たちは、土師神社の春祭りには下郷が太々神楽を、秋祭りには寺山が獅子舞を、花馬・流鏝馬は行政区の持ち回りで継承してきました。花馬・流鏝馬で登場する馬は、当番区内の農家で飼われていた農耕馬。射手も当番区内の住民が担当していました。ところが、昭和35年、農作業の機械化とともに、農耕馬が姿を消し、花馬・流鏝馬の中断を余儀なくされました。

「花馬・流鏝馬の復活を」との声はあちらこちらで

聞こえてきましたが、馬の手配がかなわず、なかなか実現に至りませんでした。ようやく復活に至ったのが平成14年。花馬を実施しました。翌15年には流鏝馬も。以来、地元有志で結成した本郷根岸花馬保存会が中心となり、継承しています。「かつての花馬・流鏝馬のように、地元の馬、地元の騎手による花馬・流鏝馬が開催できたら理想的」と語る青木さん。その理想に少しでも近づけるよう、この伝統文化を継承し、多くの人に知ってもらうことに全力を注いでいます。

御荷鉾山不動尊の獅子舞

天保14(1843)年に始められたと伝わるもので、地域の住民でつくる妹ヶ谷不動尊獅子舞保存会が伝承。3頭の獅子のほかに、道化役がいるのが特徴です。



獅子舞を後世に残していきたい

妹ヶ谷不動尊獅子舞保存会 飯塚 暉さん

第二次大戦後、途絶えていた御荷鉾山不動尊の獅子舞は、三波川西小学校の職員による郷土芸能の教材化により掘り起こされ、同小児童たちにより復活しました。「獅子舞は地域の輪そのものだった」と飯塚さんは振り返ります。3頭の獅子に驚いて泣く子どももいたり、ひょっとこのユーモアたっぷりの振る舞いに皆で大笑いしたり、獅子舞を中心に地域の輪が生まれ、絆を深めてきた歴史がありました。「御荷鉾山不動尊の世話人として、12年間

力しました。世話人の座を後進に譲った現在は、『獅子舞を含めた不動尊の歴史を一冊の本にまとめてほしい』との地域の声に応え、東奔西走する毎日です。歴史を調べていくうちに、地域の輪の象徴である獅子舞の火を消してはいけないという気持ちがますます強くなった」という飯塚さん。獅子舞と不動尊の歴史をまとめることによって、地域の文化財を再認識してもらい、獅子舞を後世に残していきたい。その思いがふくらんでいます。